

令和4年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～					
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー					
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト					
主管課	都市政策部 上下水道課				評価責任者	山風呂 敏	
関連課	環境課				評価日	令和5年6月1日	
目標	快適な生活環境のために浸水被害を防止する雨水対策を進めるとともに、生活排水処理の促進を図ります。 また、既存下水道施設についても、適切な維持管理や老朽化した施設の更新を行います。						
施策目標の実現に向けた取組	(1) 雨水対策の推進及び排水施設の維持管理 ○都市型浸水被害を防止するため、排水施設の整備を進め、既存施設についても適切な維持管理や長寿命化修繕計画に基づき修繕を行います。 ○県で進めている河川の洪水防止のための雨水浸透マス設置事業について、説明会の開催などに協力します。 (2) 生活排水処理の促進 ○市街化調整区域での排水処理を促進するため、下水道管の整備とともに、合併処理浄化槽への転換などの手法を検討します。また、市街化調整区域の整備計画及び受益者負担金の明確化を図るとともに、受益者の理解を得ながら進めていきます。 (3) 下水道事業の経営基盤の強化 ○長期的な財政計画を策定し安定的に事業を進めていきます。						

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置					
		説明	川崎地区、元福岡地区における浸水被害の軽減を図るため、令和7年度の完成を目指し、川崎地内において調整池の整備を進めており、必要となる用地を全て取得するとともに、工事実施設計を行った。					
		単位	箇所					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	49	50	51	51	52	53
		実績値	49	50	52	54	54	
	指標 2	指標名						
		説明						
		単位						
	指標 3	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
		説明						
		単位						
	指標 5	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	1,962,149	2,076,657	2,109,061	2,065,081	2,427,283	3,458,753
	人件費	72,502	78,244	75,646	75,995	79,653	87,430
収入	特定財源	1,606,057	1,767,044	1,765,242	1,771,395	2,008,441	3,006,855
	一般財源	428,594	387,857	419,465	369,681	498,495	539,328

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	貯留浸透施設設置数	近年の降雨は集中豪雨化する傾向にあり、本市においても都市型浸水被害が発生していることから、被害の軽減に効果的な地域に、雨水流出抑制を目的とした調整池及び遊水池の整備、並びに雨水浸透施設の設置を進めている。	川崎地内に調整池を整備するため、用地を全て取得するとともに、工事実施設計を行ったことから、事業は計画通り進んでいる。また、調整池2箇所のほか、6箇所の浸透井戸等、既存施設の能力維持を図るため、浚渫を実施したことにより、被害の軽減に寄与している。	雨水関連事業
取組②				
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	近年の異常気象による集中豪雨や、大型化する台風に伴う大雨により、本市においても住家への浸水や道路冠水などの都市型浸水被害が発生していることから、浸水被害の軽減を図るため、雨水流出抑制に効果的な地域に調整池等の整備、及び雨水貯留浸透施設の設置を積極的に進めている。
順調	整備事業の推進により、浸水被害については一定の軽減が図られていると認識しているが、降雨量は想定量を大きく上回ることもあり、浸水被害を完全に防止することは難しい状況である。また、経年により老朽化した施設や汚泥等が堆積した施設もあることから、適切な維持管理についても求められている。
行政資源の活用	適切
取組の有効性	有効
施策の効果	大きな効果が得られている
	こうした状況を踏まえ、将来構想の重点プロジェクトに掲げられている「強靱なまちづくりプロジェクト」による“市民が安心して暮らせる環境をつくる”ため、既存施設の適切な維持管理を徹底するとともに、雨水貯留浸透施設の設置に取り組むことにより、確保する雨水貯留量の増加を図っている。なお、雨水貯留浸透施設については、積極的な設置に注力していることから、その設置実績は将来構想の目標値を上回るものである。令和5年度以降についても既存の雨水貯留施設の設置効果を検証しながら、川崎及び元福岡地区の浸水被害の軽減を図るため、川崎地区において調整池整備工事を進めるなど、各種財政支援制度を積極的に活用してハード対策を継続しつつ、雨水監視体制等のソフト対策についても充実を図るとともに、国、県及び近隣自治体との連携による都市型浸水被害対策を推進する。

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		江川流域都市下水路（川越江川）維持管理負担金	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 一浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 06排水施設費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間			評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、江川流域都市下水路の設置及び管理並びに住民の利用に関しての協定書		
事務事業の内容	事務事業の目的	江川流域都市下水路（川越江川）の排水区域内の住民は、下水道接続以外の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路（川越江川）への放流ができることから、施設の維持管理等について川越市が管理を行い、要した費用の負担割合分を本市が負担する。		
	事務事業の経緯	江川流域都市下水路（川越江川）の排水区域内の住民が、当該区域内の生活排水（浄化槽処理水）及び雨水を江川流域都市下水路（川越江川）に放流することができるよう、維持管理等に要する費用について川越市と負担割合の協定を締結し、効率的な維持管理を行っている。 ・負担割合 本市：50.7%、川越市：49.3%		
	事務事業の概要	管理者の川越市が支出する維持管理経費（保守点検等）に対して、負担割合に応じて負担金を支払う。		
	令和4年度の主な取組	管理者の川越市が実施する応急排水ポンプ管理業務、草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理に要する費用を精査し、負担割合に応じた負担金を適切に支出した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	806	797	797
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		806	797	797	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	4,358	2,727	22,549	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	0	0	0		
支出合計		5,164	3,524	23,346	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		5,164	3,524	23,346	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		45	31	202	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>管理者の川越市が実施する応急排水ポンプ管理業務、草刈清掃業務委託及び樋門保守点検委託等の維持管理に要する費用を精査し、負担割合に応じた負担金の支出を、川越市からの請求に基づき令和5年3月に行った。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>江川流域都市下水路（川越江川）の適正な維持管理等を行うために必要な負担金であるが、川越市で実施した内水解析業務の結果を踏まえ、負担割合の変更協議を継続的に実施する。</p>
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業管理等事務		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー			
予算費目		下水道事業会計			
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利	
事務事業期間			評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		下水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例、ふじみ野市下水道条例、ふじみ野市下水道事業経営戦略			
事務事業の内容	事務事業の目的	生活環境の改善、雨水の排除及び公共用水域の水質保全を図り、快適で安全な市民生活を確保するため、計画的・効率的な事業経営に取り組む。 また、下水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる下水道使用料を適正に収納する。			
	事務事業の経緯	下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算・決算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する。			
	事務事業の概要	的確な下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行う。 なお、下水道使用料の賦課徴収に関する業務については、水道事業に委託している。			
	令和4年度の主な取組	下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 コロナ禍における原油価格・物価高騰に直面している市民生活及び経済活動を支援するため、令和5年1月及び2月検針分における公共下水道使用者（公共施設等は除く。）の下水道使用料を1万円を限度として減免を行った。 現行の下水道事業経営戦略（平成30年度～令和9年度）について令和5年度に改定するため、令和4年度から改定に着手した。 下水道公社による移動下水道教室を3校を除き、申込のあった小学校10校で実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.30	3.30	
		人件費	26,589	26,285	
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
		人件費	0	0	
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	
		人件費	0	0	
人件費計		26,589	26,285	30,267	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	1,388	201	513	
	委託料	147	2,618	6,360	
	使用料及び賃借料	1,348	1,186	1,490	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	729,088	669,156	739,472	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	996,796	968,047	997,495	
支出合計		1,755,356	1,667,493	1,775,597	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	12,162	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	1,373,592	1,010,787	1,297,829
		分担金・負担金	0		0
		地方債	75,500	262,591	95,300
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		306,264	381,953	382,468	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		2,678	3,347	3,309	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。
※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	当年度純利益（純損失）額		
	説明	収支状況を表し、収益から費用を減じた事業活動の最終的な収支状況を表す指標。 ※この数値がプラスであれば純利益、マイナスであれば純損失が生じている。 ※令和3年度実績値は見込額。確定実績値は268,997千円。 ※令和4年度実績値は確定実績値。		
活動	単位	千円		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	49,617	54,150	57,701
	実績値	245,846	134,328	
指標 2	指標名	経常収支比率		
	説明	経常費用が経常収益によって、どの程度賄われているか収益性を表す指標（経常収支比率＝経常収益/経常費用×100） ※令和3年度実績値は見込額。確定実績値は118.75%。 ※令和4年度実績値は確定実績値。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	103.23	103.51	103.75
	実績値	116.55	109.61	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>下水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。</p> <p>コロナ禍における原油価格・物価高騰に直面している市民生活及び経済活動を支援するため、令和5年1月及び2月検針分における公共下水道使用者（公共施設等は除く。）の下水道使用料を1万円を限度として49,848件の減免を行い、そのうち全額減免となった件数は49,452件、全額減免率は約99.0%と公共下水道使用者の負担軽減を図った。</p> <p>下水道公社による移動下水道教室を希望のあった小学校10校で実施し、4年生児童814人が参加した。移動下水道教室を通じて児童たちが下水道を身近に感じ、関心を高めることができた。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	生活環境の改善、雨水の排除、公共用水域の水質保全を目的に下水道事業の運営を行っている。下水道事業は、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用する地方公営企業となり、市長部局から独立し独立採算制を原則としていることから、「ふじみ野市下水道事業経営戦略」に基づき、今後も持続可能な経営を維持する必要がある。
中長期的方向性	市街化調整区域の公共下水道（汚水管渠）整備については、受益者負担金の新規賦課及び徴収事務が円滑に行われるよう、工事説明会等において対象地区住民に対する受益者負担金制度の周知及び啓発を図る。また、「ふじみ野市下水道事業経営戦略」について、本市の現況に即した中間見直しを行い、より効率的かつ効果的な経営戦略に改定する。
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（污水）	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		下水道事業会計		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間			評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、ふじみ野市公共下水道事業受益者負担に関する条例、ふじみ野市下水道事業経営戦略、下水道ストックマネジメント基本計画		
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良好な機能を維持する。		
	事務事業の経緯	市内の公共下水道（污水）は、都市計画法、下水道法に基づき、整備区域拡大を図ってきた。また、過去に整備してきた公共下水道施設の老朽化が進んできていることから、下水道法令や経営戦略との整合を図る。		
	事務事業の概要	①下水道施設の日常的な管理運用と計画的な保守点検を行い機能を維持する。 ②水質検査を計画的に実施し、利用者に対し適切な排水指導を行う。 ③埼玉県荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターにて汚水を高度処理するための負担金の支払い。		
	令和4年度の主な取組	①社会資本整備総合交付金により、管路施設等の維持管理費の平準化を図るためにストックマネジメント点検調査業務を実施した。 ②特定施設や除害施設に対する水質検査を実施し、改善が必要な事業所等に対し排水指導を行った。 ③公共下水道の不明水削減を図り、負担金の低減を実現するため、不明水対策調査を推進した。 ④公共下水道（污水）整備地区において自治会長への説明を行い、管渠築造工事に着手した。また、上沢勝瀬線においては公共下水道（污水）管渠築造工事が完了した。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.70	2.00	1.30
		人件費	13,697	15,930	10,355
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		13,697	15,930	10,355	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	20,311	18,344	22,550	
	委託料	73,477	44,982	89,581	
	使用料及び賃借料	251	250	238	
	工事請負費	54,450	87,558	349,283	
	負担金、補助及び交付金	831	16,435	18,097	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	4,069	25,369	38,911		
支出合計		167,086	208,868	529,015	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	4,700	9,210	9,968
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	130,486	162,829	190,652
		分担金・負担金	0	3,108	10,149
		地方債	31,900	33,721	318,246
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源	0	0	0		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標	指標名	有収率		
	説明	ゲリラ豪雨等による雨水の流入及び、老朽化した下水道管への不明水の流入により、排水量(不明水)が増加していることから、改修・修繕が、不明水の流入軽減にどれだけ効果があったかを測るもの。 ※令和3年度実績値は見込額。確定実績値は87.87%。 ※令和4年度実績値は確定実績値。		
活動	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	84.50	84.50	84.50
	実績値	85.70	88.28	
指標	指標名	下水道普及率		
	説明	行政区域内の公共下水道(汚水)の普及を促進するため、未整備区域の解消を図る必要がある。		
活動	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	94	94	94
	実績値	94	94	
指標	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【ストックマネジメント計画】 令和4年度社会資本整備総合交付金による点検調査業務を約20km(マンホール目視調査工786基, マンホール蓋点検工786基)実施した。効果としては、大規模修繕箇所は発見されなかったため、公共下水道の経営戦略において更新計画を上方修正できるようになった。</p> <p>【未普及地区の対策】 市街化調整区域内の公共下水道(汚水)未整備地区については、公共下水道の整備内容や受益者負担に関する事項について自治会長への説明を実施した。大井・苗間、駒林、川崎地区において、令和4年度の工事着手及び令和5年度の整備予定箇所についての工事実施設計を進めることができた。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	公共下水道施設の日常の安全点検を確実に行うことにより、施設の損傷を早期に発見し改善するとともに、引き続き県や関係市町と協力して不明水対策調査に取り組む。また、管路等施設のストックマネジメント実施方針により、維持管理業務の効率化を図るとともに、維持コストの平準化により経済的な維持管理業務に資する。さらに、ストックマネジメント計画調査を継続しながら、緊急度の高い施設を必要に応じて改築又は更新を実施することにより、安全・安心な下水道施設を維持する。
中長期的方向性	市街化調整区域の未普及対策については、未整備区域の解消を図るため、順次調査・設計業務を実施し、地元説明会を実施しながら事業を進める。
拡充	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道施設管理・整備事業（雨水）	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		下水道事業会計		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間		～令和25年度	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例、下水道ストックマネジメント基本計画		
事務事業の内容	事務事業の目的	浸水被害の軽減を図るため、雨水貯留浸透施設等の整備を促進するとともに、適正な施設の維持管理を行なう。		
	事務事業の経緯	平成27年度から令和2年度までに大井武蔵野地区に2基、亀久保大野原地区に1基の雨水調整池を設置した。また、元福岡地区等の浸水被害軽減対策として、令和3年1月26日に川越市と内水対策施設の整備に関する協定を締結し、川崎地内に調整池及びポンプ施設を設置する計画を進めている。		
	事務事業の概要	台風や集中豪雨により雨水浸水実績のある地区を優先として、雨水貯留浸透施設の整備を促進する。また、富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理を定期的に行う。		
	令和4年度の主な取組	①川越江川に係る内水対策施設事業として、川崎地内に貯留量約38,000m ³ 、吐出量毎秒約3.5m ³ のポンプ施設を設置するため、工事実施設計を行った。また、土地所有者14件と用地取得（16,024.53m ² ）を全て完了した。 ②富士見市との協定に基づき砂川堀第2雨水幹線の維持管理として除草等を定期的に行った。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.30	0.50	2.00
		人件費	2,418	3,983	15,930
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		2,418	3,983	15,930	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	583	941	2,009	
	委託料	58,269	78,546	10,836	
	使用料及び賃借料	0	0	447	
	工事請負費	2,640	2,068	1,014,640	
	負担金、補助及び交付金	6,400	9,453	4,782	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	2,061	397,592	2,719		
支出合計		72,371	492,583	1,051,363	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	205,800	506,000
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	49,471	227,923	342,963
		地方債	22,900	58,860	202,400
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源	0	0	0		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	川崎調整池整備事業		
	説明	川崎調整池整備事業の進捗管理として、事業費ベースの進捗率の算出を行っている。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0.00	11.95	41.30
	実績値	2.00	15.44	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>【川崎調整池整備事業】</p> <p>令和4年度社会資本整備総合交付事業により川崎調整池及びポンプ施設並びに取水施設等の工事実施設計業務を実施し、県・川越市との協議を円滑に進めることができたほか、令和5年度の工事着手に向けて起工準備を整えることができた。また、土地所有者14件と用地取得交渉を重ねた結果、16,024.53㎡、74筆全部の用地をスケジュール通り取得することができたため、令和5年度の工事着手を確実なものとした。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	元福岡地区や川越市寺尾地区において、平成29年台風第21号及び令和元年東日本台風により発生した内水浸水被害の再度災害軽減を図るため、早期の内水対策施設（調整池・ポンプ施設）の完成を目指す。
中長期的方向性	
拡充	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡江川幹線事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		下水道事業会計		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間			評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		都市計画法、下水道法、ふじみ野市下水道条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	福岡江川幹線の機能保持及び管理の適正化を図る。		
	事務事業の経緯	近年の気候変動による豪雨により、福岡江川幹線周辺にて浸水被害が発生してきたことから、雨水の適正排除のための下水道機能を保持し、適切な維持管理を必要としてきた。		
	事務事業の概要	福岡江川幹線の定期的な清掃及び修繕等を計画的に行う。		
	令和4年度の主な取組	6月から11月までの出水期間には江川樋管部に臨時用排水ポンプ2基を設置し、水宮地内の浸水被害軽減に備えた。また、丸山橋（東武東上線高架下）から約827mの暗渠区間においては、函渠内潜行点検調査を行うとともに、コンクリート圧縮強度試験を実施した結果、コンクリートの劣化等は見られなかったが、目地からの軽微な漏水が確認されたため、堆積土砂の撤去処分と共に補修計画を立案する。さらに、福岡江川流域における排水量調査を実施することにより福岡江川幹線と新河岸川の合流点での流量等を算定した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.00	1.00	1.20
		人件費	7,507	7,965	9,558
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		7,507	7,965	9,558	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	1,391	709	2,064	
	委託料	6,861	3,927	36,650	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	10,682	1,375	1,782	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	0	0	0	
支出合計		26,441	13,976	50,054	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	26,441	13,976	50,054
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	浸水被害軽減策としての浚渫		
	説明	台風や集中豪雨等の大雨後に、福岡江川幹線の底面に汚泥が堆積し流下阻害をもたらすおそれがあることから、浚渫を実施することにより、流域の浸水被害の軽減を図る。		
活動	単位	m		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	750	0	750
	実績値	670	0	
指標 2	指標名	福岡江川護岸嵩上げ事業		
	説明	台風やゲリラ豪雨時の水位の上昇による福岡江川からの溢水を軽減するため、左右岸においてフェンス基礎ブロックを嵩上げし貯留能力を高める。		
活動	単位	m		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	190	0	0
	実績値	200	0	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【浸水被害軽減策】
	<ul style="list-style-type: none"> ・排水ポンプ設置 新河岸川と福岡江川幹線の合流部において、出水期間に限定して臨時用排水ポンプ（1分当り4m³排水）を2基設置した。このことにより、同幹線の排水機能を適正な状態に維持した。 ※設置期間 令和4年6月4日～令和4年12月10日 ・浚渫 福岡江川幹線開渠部（水天宮橋～谷田橋間）において幹線底部に堆積した汚泥の浚渫作業を行う。このことにより、同幹線の流下能力を維持し、付近住宅の浸水被害の発生を防止する。本年度より隔年事業となったため、翌年度に実施する。 ※施工延長 L=約0m 土砂処分量 V=約0m³ ・福岡江川排水量調査 福岡江川流域内の雨水浸透施設及び遊水池等の貯留機能を加味した浸水シミュレーションを実施した。結果は、平成29年台風21号及び令和元年東日本台風における降雨条件での浸水域の縮減を確認することができた。また、福岡江川樋管閉鎖時における新河岸川へのポンプ吐出量及び概算事業費を把握することができた。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	福岡江川樋管部で、出水期間中、臨時排水ポンプ（8吋2台）の設置を継続して行い、幹線底部の汚泥堆積を監視し、流下阻害防止のため浚渫作業を行っていく。また、施設機能を保全するため除草作業を継続的に実施する。福岡江川幹線の暗渠区間約827mについて、目地漏水を補修するとともに函内堆積した土砂の撤去処分を行う。福岡江川護岸嵩上げ及び江川右岸側の雨水貯留施設の整備効果を監視しながら、企業誘致土地区画整理事業で整備する調整池の効果も一体的に見極めながら、さらなる対策を図るため、令和5年度においても福岡江川流域の流出解析業務を実施することにより基本計画策定を進める。
中長期的方向性	
拡充	福岡江川樋門閉鎖時における新河岸川へのポンプ排水機場の整備のための検討を、緊急自然災害防止対策事業債の動向を踏まえながら、基本計画及び詳細設計業務を進めていく。

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		下水道事業負担金	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 02公共下水道費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地方公営企業法、地方公営企業繰出金について（総務省通知）		
事務事業の内容	事務事業の目的	地方公営企業は、経費の負担の原則により、その性質上、地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費（雨水処理に要する経費等）については、一般会計等において負担するとされており、対象経費に対する負担金を支出することで、負担区分の適正化を図る。		
	事務事業の経緯	下水道事業においては、汚水処理と雨水処理があり、経費の区分について、雨水の排除や公共用水域の水質保全などは、「雨水公費・汚水私費」の原則により一般会計において負担するものとされていることから、下水道事業への負担金は、総務省の繰出基準に基づき適切に算定している。		
	事務事業の概要	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正な維持管理が必要となることから、下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出する。		
	令和4年度の主な取組	経費負担区分の適正化を図るため、国の繰出基準に基づき適切に積算された負担金（繰出金）を下水道事業会計へ支出した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	806	797	797
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		806	797	797	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	0	0	0	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	0	0	0		
支出合計		806	797	797	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源	806	797	797		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		7	7	7	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般会計繰出金のうち企業の収入を充てるべき経費に対する繰出金の率		
	説明	一般会計より繰り出される繰出金において、国が一般会計で負担すべきと定める「繰出基準」を負担金（繰出金）の原則とすることにより、地方公営企業の経営健全化を図る指標とする。 ※この比率が0%である場合、企業収入を充てるべき経費の中に一般会計繰出金が充当されていないことから、経営の健全化が図られている。		
成果	単位	%		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	経費負担区分の適正化を図るため、国の繰出基準に基づき、適切に積算された負担金（繰出金）を下水道事業会計へ支出した。
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	下水道事業では、汚水を処理する公共下水道と雨水を処理する一般管を有しており、河川等の水質改善及び生活環境の向上に寄与するために、適正に維持管理しなければならない。 下水道事業会計の負担区分の適正化を図るため、今後も下水道事業会計への負担金（繰出金）を支出していく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		排水施設事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 06排水施設費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間			評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、下水道法、ふじみ野市下水道条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	下水道施設の良い機能を維持することを目的とする。		
	事務事業の経緯	大雨などで一般下水道施設への土砂等の流入により、排水機能が低下したことで、道路冠水等の浸水被害が発生した経緯を踏まえ、施設の適正かつ良好な維持管理を行う。		
	事務事業の概要	排水施設等の定期的な清掃及び点検等を計画的に行う。		
	令和4年度の主な取組	富士見市との協定に基づき実施している旧砂川堀改修工事については、平成30年度まで年間の施工延長を2mとしてきたが、浸水被害の危険を早期に軽減することを目的として、令和元年度から令和4年度まで年間に10mの施工延長を実施し、令和4年度においても延長約4m、水路幅2mのU型水路に改修した。また、一般下水道管が効率的に機能するよう約343mの管洗浄業務を実施した。さらに、亀久保地区の排水困難対策として令和3年度に布設した一般下水道管の舗装本復旧を約874㎡、亀久保三丁目の浸水軽減を目的として令和3年度に布設した一般下水道管の舗装本復旧を約194㎡それぞれ実施した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.30	1.00
		人件費	10,475	10,355	7,965
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		10,475	10,355	7,965	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	8,981	39,458	50,007	
	委託料	17,299	10,368	11,451	
	使用料及び賃借料	0	92	73	
	工事請負費	15,847	15,300	3,410	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	2,956	2,970	3,758		
支出合計		55,558	78,543	76,664	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	12
		分担金・負担金	5,209	2,825	2,502
		地方債	0	0	0
		基金	15,996	4,649	0
		その他	0	0	0
一般財源	34,353	71,069	74,150		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		300	623	641	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	一般下水道管の洗浄		
	説明	雨水や雑排水の滞留を防止するため、一般下水道管内の洗浄業務の実施延長。		
活動	単位	m		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	350	350	0
	実績値	1,900	343	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>【一般下水道管渠清掃】 350m管渠清掃を計画していたが約343m実施し、一般下水道管内の滞留防止を図った。台風等の大雨が発生するとさらなる土砂堆積も見込まれることから計画的な洗浄業務を実施していくことで浸水被害軽減の効果が発揮される。</p> <p>【旧砂川堀改修工事】 旧砂川堀について、令和4年度において、施工延長約4m改修し合計53mの拡幅が完了したことから、旧砂川堀周辺の苗間地区の浸水被害軽減対策が促進された。 令和5年度に附帯工事として門扉フェンス及び水路両側の舗設が完了する見込みであり、適切な維持管理を図る。</p> <p>【雨水排水路維持管理】 雨水排水路について、除草等の定期的な維持管理を実施したことにより、適正な施設状態の保全と円滑な流下能力の確保に努めたことで、水害や雨水滞留を抑制する効果が見込まれる。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	旧砂川堀改修工事は、浸水軽減を早期に実現するため、令和元年度から延長を延ばして施工してきたが、令和5年度では水路両側の舗設及び門扉フェンスの整備完成を目指す。 また、昭和40年代に布設された一般下水道管の劣化状況を調査するため、一般下水道管内のテレビカメラ調査を実施しているが、安全な下水道施設を維持する観点から、国道や県道、主要な市道に埋設される一般下水道管を優先に、引き続きテレビカメラ調査を行っていく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		雨水関連事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	33 下水道 ー浸水被害を防止し、環境整備のため生活排水処理を進めますー		
予算費目		一般会計 08土木費 04都市計画費 06排水施設費		
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間		～令和25年	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地方自治法、下水道法、ふじみ野市雨水流出抑制対策取扱要綱		
事務事業の内容	事務事業の目的	雨水の流出抑制として雨水浸透施設の設置、及び機能保持に必要な清掃・点検等を行うことにより、雨水浸水の防止・軽減を目的とする。		
	事務事業の経緯	大雨により市内各地で浸水や冠水被害があった経緯を踏まえ、都市型水害対策として、遊水池や雨水浸透施設などの整備を進めるとともに、開発行為により整備される宅地・道路に対し、雨水流出抑制対策取扱要綱に基づき雨水浸透施設の設置に対する指導を行ってきた。		
	事務事業の概要	浸水被害が発生している地区に雨水貯留浸透施設等の設置を行う。併せて、雨水貯留浸透施設の清掃・点検等を定期的に行う。		
	令和4年度の主な取組	東原親水公園地下調整池浚渫業務及び雨水貯留浸透施設浚渫業務において、合計85㎡の堆積土砂を処分したため、貯留及び浸透能力を保持した。また、下福岡ポンプ場においてポンプ交換を行ったことで、効率的な排水機能を確保した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.70	1.70	1.50
		人件費	13,697	13,541	11,948
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		13,697	13,541	11,948	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,687	1,361	2,379	
	委託料	5,776	19,469	21,274	
	使用料及び賃借料	1,586	3,353	3,596	
	工事請負費	35,317	3,358	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	231	70	337		
支出合計		58,294	41,152	39,534	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	35,200	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源	23,094	41,152	39,534		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		202	361	342	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	雨水浸透施設等の設置		
	説明	浸水被害を軽減するため、雨水浸透施設等の設置基数。 ※ 令和3年度で雨水浸透施設等の設置数が目標値に達したことから、令和3年度以降の目標数値を変更		
活動	単位	基		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	54	54	54
	実績値	54	54	
指標 2	指標名	浸透施設等維持管理		
	説明	ゲリラ豪雨等による浸水被害を軽減するため、浸透施設等の清掃業務の実施基数。		
活動	単位	基		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	12	12	12
	実績値	12	15	
指標 3	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	【雨水浸透施設清掃等業務】
	雨水浸透井戸の清掃6箇所、遊水池等草刈り7箇所（苗間一丁目遊水池の切株伐根、樹木剪定を含む）、東原親水公園地下貯留施設の浚渫1箇所、ふじみ野三丁目地下貯留施設の浚渫1箇所の合計15箇所の雨水関連施設について、除草や浚渫清掃を行ったことにより、施設の適正な機能を確保することができた。
	【遊水池等監視カメラ設置】
	遊水池等に監視カメラを11箇所設置したことにより、豪雨時において遠隔からタブレット端末器を通してモニタリング監視を実施することができた。また、タブレット端末を関係する部署で共有することにより情報共有を図ることができた。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
拡充	台風や集中豪雨により、雨水浸水被害にあった地域については、雨水貯留浸透施設の整備を進めてきたが、設置済みの雨水浸透槽の効果を見極めながら今後のさらなる雨水対策の整備方法を検討するとともに、福岡江川雨水幹線へのピークカットについても検討を行う。
中長期的方向性	また、11箇所の遊水池等に設置した監視カメラについては、IoTを活用した水害対策として導入しているが、台風やゲリラ豪雨時の状態を早期に情報取得するよう遠隔からのモニタリング監視の強化を図る。
拡充	